

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176501045		
法人名	株式会社カネット・ふれあい		
事業所名	ふれあい多居夢浦和		
所在地	さいたま市浦和区元町1-32-17		
自己評価作成日	平成22年3月3日	評価結果市町村受理日	平成22年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成22年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族や地域に根ざしたホーム作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域にとけ込んだ事業所運営が行なわれ、利用者の生活に活かされている。年初めにはご近所へ新年のあいさつに回るほか、餅つきにお邪魔したり、カラオケ機材を借用するなど、ご近所づきあいされ友好的な関係がつけられている。また、事業所の季節イベントには地域の方々をお招きするほか、中学生の社会体験や市介護相談員派遣事業の受入れなど活発に地域との交流が図られている。 ・職員研修システムが確立され、サービスの質の向上に活かされている。新人研修や中堅者研修など職員の各階層ごとの研修システムが整備され、職員のスキルアップのための全社的な取り組みが行われている。又、中途採用者教育も職員の知識・技術・キャリアを活かし懇切丁寧に行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所に掲示している。また全体会議(2回/年)やホーム会議(1回/月)で確認している。	職員全員で創られた理念を全体会議や各フロア会議で話し合われている。実践として、職員も共に楽しめるゆとりある介護を目指し、チームでケアに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事(もちつき、納涼祭、盆踊り)など地域住民と互いに交流し合いを深めている。	年初めには近隣住民宅に新年のあいさつに回るほか、餅つきにお邪魔したり、カラオケ機材を借用するなど友好的な関係がつけられている。また、事業所の季節イベントには地域の方々をお招きするなど活発に地域との交流が図られている。	
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して入居者方々への支援方法や現状を話し合い情報交換している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、ご家族や民生委員、自治会長等の意見を参考にし、サービスの向上に活かしている。	定期的開催され、事業所の報告だけに終わらず、出席の方から意見や提案がなされて有効的な会議運営をされている。会議内容も事業所運営や利用者の運動機能向上対策、地域情報などサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査の再認定の手続きや、市の在宅福祉サービス(理・美容や紙おむつの支給)等、連絡を取り合い連携を図っている。	さいたま市介護相談員派遣事業の受入れも予定されているほか、申請手続きや報告、相談などの機会をとらえコミュニケーションを図り、良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、全体会議などで、そのつど周知・確認し取り組んでいる。	定期的に身体拘束廃止委員会が開催され、身体拘束の内容とその弊害についての話し合いがもたれ、身体拘束をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会、会議などで学ぶ機会を設け、ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身内がない入居者やご家族の意向にて後見制度を利用されていることがあり、かかりつけ医に診断書を記入していただくなど、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書を読み合わせ不安や疑問点はその都度説明し納得していただいた上で、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者やご家族から意見要望を伺い、会議等で改善を図るようにしている。	利用者については、日頃の関わりの中で、家族とは運営推進会議や面会時に意見や提案の聴きとりをされている。出された意見や要望などは職員間で話し合い、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やホーム会議などで職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	管理者や社長との個別面談のほか、全体会議や各フロア会議などでも意見や提案の聴きとりが行なわれている。何でもやってみましょうの考えで意見や提案の言いやすい環境がつけられ、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの意見や希望を取り入れ向上心を持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量の必要性に合わせて法人内外の研修を受ける機会を設けスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などに参加し、勉強会交流する機会を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前調査を行い、その人の希望や不安に思っていることを伺い、その人の思いに沿ったサービスを提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より不安に思っていること、要望を伺い希望に沿ったサービスを提供できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援に合ったサービスを助言説明し、情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員共に少人数で日々過ごすことで、互いを支えあう関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やホームのレクリエーションに参加して頂き、本人との絆を大切にしながら共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族を通じて、その人の馴染みの方に現状を伝えていただき、面会に来ていただいている。	知人、友人が面会に見えるほか、電話や手紙での連絡を取り持つなど関係継続への支援が行なわれている。また、馴染みのお店での散髪や買いものなど支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を考慮しフロアーの席を適時替えて交流が図れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もホーム内のレクリエーションについて連絡し、参加して頂いている家族がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でその人の希望や想いを汲み取り、その人の希望に沿ったサービスを提供している。	日々のかかわりの中で声をかけ、表情やしぐさなどから思いや意向を推し測られている。また、担当職員での振り返りや友人からの情報で新しい発見をするなど工夫し、取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族を通じてこれまでの生活歴や馴染みの暮らしの情報収集しケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を細かく記録し、職員間で情報を共有し、その人の現状に合ったサービスを提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を伺った上で居室担当者を中心に職員で話し合いながら計画を作成している。	アセスメントを含め、計画作成担当者・居室担当者ほか必要な関係者を交えて意見交換やモニタリング、カンファレンスが行われ、介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことでも個別記録に記入し、ミーティングなどで情報を共有し介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少人数での施設の特性を生かし、ご本人やご家族の要望を素早く取り入れ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや味噌作りなどに参加し、暮らしの中にも楽しみを見出せるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医と連携を取りながら、適切な医療を受けられるようにしている。またご家族の希望された医療機関の受診対応も行っている。	入居時に家族も交え、過去や現在の受診状況を確認し、かかりつけ医や協力医療機関での受診についての話し合いが持たれ、希望にそった適正な受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週4回看護師の勤務があり、連携をとりながらかかりつけ医の月2回の往診対応などしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関が決まっており、退院に向けた連携が適切に行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は事業所内で「出来ること」を見極めたうえで、かかりつけ医と共に必要な支援体制を作りチームとして支援している。	重度化や終末期への事業所対応について、入居時に説明され、家族とも意思統一されている。また、看護職員も補充され体制の整備が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応手順を解かりやすくチャート図にしたマニュアルを掲示し確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練(年2回)スタッフ入居者と参加し、ホーム全体で取り組んでいる。	年2回消防署との合同訓練と事業所単独での防災避難訓練が実施されている。また、地域の協力体制についても運営推進会議などで現在、取り組みを進めている。	火災対応マニュアルは整備され、職員の役割分担や連絡体制も文書化されているが、地震や風水害の対応マニュアル及び夜間(職員1名体制)など発生時間別のマニュアルの整備とその訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した言葉掛けや対応を常に心がけて気をつけている。	年長者として敬意を払った対応と個人情報の責任ある取り扱い、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮などきめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人の視点に合わせて、自己決定できる様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせて希望に沿った援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望時に近くの理髪店に外出している。外出困難社に対しては月1回の訪問美容を利用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から食事の準備や片付けなどを一緒にを行い、役割の一つとして、働きかけている。	利用者個々の力に合わせ、料理の下準備や下膳、後片付けを職員と共に行っている。メニューも利用者の希望に沿い、菜園で育てたトマトやきゅうり、なすなども食材として調理し楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事量・水分量を記録しその人に合わせた食事や飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のマウスウォッシュ等用いて口腔ケアを行っている。また歯科往診にて検診をしていただき、治療の必要な方はその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立排泄が困難な利用者には個別排泄チェック表を使用して排泄リズムを把握した上で、定時での誘導など必要な援助を行っている。	職員全員で利用者ごとの習慣やパターンを話し合い、個別対応策を検討され、トイレでの排泄や自立にむけた支援がとられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として牛乳や食物繊維の豊富な食事を提供したり、腹部マッサージなどを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その人の希望時間や希望曜日を伺い入浴していただいている。	希望に沿い午後からは毎日でも入浴できるよう支援されている。ゆず湯やしょうぶ湯など季節湯も楽しまれ、利用者の状態で入浴できない日には、足浴や足のマッサージなども行なわれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員間で記録を通じて個々の生活リズムを把握し、安心して休息・安眠出来るよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイリングし薬の用法や作用を常に確認できる様援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴を活かしたホームでの役割を提供し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、外食など一人ひとりの希望に合わせて対応している。	利用者の希望に沿い、散歩される方、玄関前の陽だまりでゆっくりおしゃべりをする方など、利用者本位のゆとりある支援がとられている。また、靖国神社参拝など個別支援のほか、季節の花を楽しみに近隣の公園にも計画的に出かけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の金銭管理能力に合わせて、買い物を楽しんでいただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りや手紙は、本人の希望時にいつでも行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花など採り入れ心地良く過ごして頂けるよう配慮している。	季節を感じていただくよう、お花見の写真や桃の花などが飾られている。畳の和室スペースにはアンティークな家具が置かれ、落ち着いた雰囲気となっている。また、通路の陽だまりにもソファを置いてゆっくり過ごせるよう工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数人掛けできるソファや個人で座れる椅子を置き、その人が思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人が使い慣れた家具やご家族の写真を飾るなど、心地よく安心して過ごせるよう工夫している。	寝具やタンス、写真や思い出の品々が持ち込まれ、個性ある設えで、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やバリアフリーなど、安全に活動出来るような環境になっている。		

(別紙4(2))

事業所名 ふれあい多居夢浦和

目標達成計画

作成日: 平成 22年 5月 6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間を想定した訓練は現在までされておらず、早急に実施し、スタッフ全員への周知を図る。	夜間災害発生時の対応をスタッフが出来るようになる。	・運営推進会議で災害をテーマに意見交換を実施し協力体制を構築していく。 ・春・秋の防災訓練は夜間を想定した訓練を行う。	12ヶ月
2	35	地震、風水害に対応したマニュアルがない。	地震や、風水害に対して全スタッフが適切に対応出来るようになる。	地震や風水害に対応したマニュアルを整備する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。